

授業に活用できる視聴覚教材の開発と利用

—特別支援学級の児童が主体的に活動できる教材の作成—

1. 設定理由

市原市では特連（市原市特別支援教育研究連盟）行事や近隣校の特別支援学級との合同学習会など、特別支援学級に在籍する児童による交流学習が活発に行われている。その際、会場への移動手段として路線バスを利用することが多い。しかし、児童は家庭で路線バスを利用した経験はほとんどなく、バスの乗り方や料金の支払い方について知らない児童が多い。また、実際にバスに乗る際は教員があらかじめおつりのないように料金を用意させ、乗り降りについては細かく指示をするなど児童にとっては「受け身」の活動となってしまう。

以上の実態から、児童がバスの乗り方について進んで考え、主体的に活動できるようにコンピュータを使った教材を作成する本テーマを設定した。

2. 研究仮説

子どもたちが親しみやすく、興味を持てる補助教材を作成すれば、関心意欲を持って主体的に学習に取り組むことができるだろう。

3. 研究内容

- (1) 教材作成のためのシナリオ作りをする。
- (2) バス会社を訪問し、バスの様々な機器の画像素材を集める。
- (3) 集めた画像素材をもとに、教材「バスの乗り方を学習しよう」を作成する。
- (4) 作成した教材を使って検証授業を行う。
- (5) 検証授業の様子と実際に合同学習会で路線バスを利用した際の児童の活動の様子をもとに成果と課題を明らかにし、今後の研究につなげる。

4. 結論

- 検証授業では、大型モニタの画面を見ながら、バスの乗り方・降り方の手順や料金の支払い方について考え、進んで発表することができた。文字が十分に読めない児童も画像を見ながら発表するなど主体的に学習する姿が見られた。
- 地区の合同学習会で路線バスを使用した際には、高学年児童が低学年児童に声をかける場面が多く見られ、検証授業で学習したことが生かされていた。

研究主題

授業に活用できる視聴覚教材の開発と利用

—特別支援学級の児童が主体的に活動できる教材の作成—

1. 設定理由

(1) はじめに

市内小中学校のコンピュータシステムが更新され、学習の様々な過程において、ますますコンピュータの活用がしやすくなった。またソフトや教材の進歩により、画像や動画による素材を簡単に編集し提示することができるようになった。そこで子どもたちの実態に合わせて視覚に訴える補助教材を作成すれば、関心意欲を引き出し、効果的に学習を進めることができるのではないかと考え、市原市の市教研小中視聴覚部会では本主題を設定し研究を行っている。

(2) 市原市の特別支援教育の実態から

市原市では特連（市原市特別支援教育研究連盟）行事や近隣校の特別支援学級との合同学習会など、特別支援学級に在籍する児童による交流学習会が活発に行われている。

<市内一斉>

- 特連運動会（6月）
- 特連文化フェスティバル（12月）

<地区活動>

- 姉崎地区合同ハイキング（9月）
- 特連文化フェスティバル発表練習会（11・12月）4回
- ありがとうの会（12月）

※千種小学校の場合

会場への移動については保護者による送迎の場合もあるが、公共の交通機関を利用することが多く、なかでも路線バスを利用することが最も多い。路線バスは家庭で利用する機会が少なく、全く乗ったことのない児童もいる。また、乗車時に整理券を取り、利用区間に応じて運賃を確認し、支払いをするという路線バスの乗り方は子どもたちにとっては複雑で難しいと言える。そのため、路線バスを利用する際、教師はおつりがないように運賃を持たせるように保護者にお願いし、当日の乗り降りの際には教師が子どもたちに細かく指示を出し、教師主導の受け身的な活動になってしまうことが多い。事前指導でも、手頃な教材がないため口頭での説明が多くなり、視覚からの情報が入りやすい児童が多い支援学級の子どもたちにとっては難しい課題となっている。こうした実態からバスの乗り方について児童が自ら考え、主体的に活動できるような教材の必要性を感じた。

2. 研究仮説

子どもたちが親しみやすく、興味を持てる補助教材を作成すれば、関心意欲を持って主体的に学習にとりくむことができるだろう。

3. 研究内容

教材「バスの乗り方を学習しよう」を作成し、検証授業を行う。合同学習会等で実際に路線バスを利用した際の児童の活動の様子から成果と課題を明らかにし、改良を加え、次の活動に生かす。

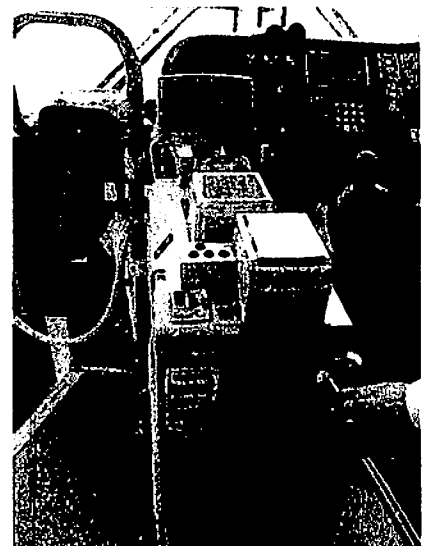
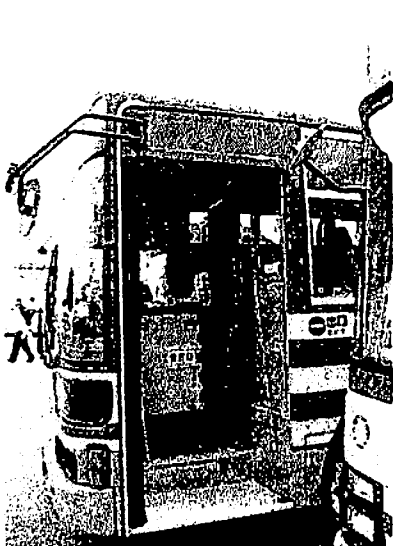
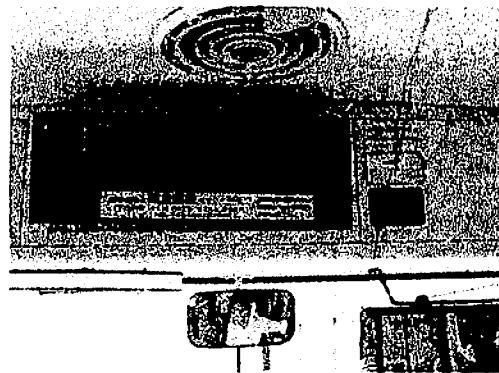
(1) 教材の作成

①シナリオの作成

バスの乗り方、料金の支払い方、降り方などの流れが視覚的にわかるような教材の作成を考えた。プレゼンテーションソフト「PowerPoint」を使って作成することにし、アニメーション機能を使って児童一人ひとりが主体的に考えられるようにすることを確認した。

②路線バスの画像素材

8月に小湊バス姉崎営業所を取材させてもらい。発券機、押しボタン、優先座席、手すり、料金箱、運賃表示器等のバス内部の機器について撮影させてもらい、画像素材を集めた。



③「バスの乗り方を学習しよう」の教材作成

- 1 バスの乗り方
- 2 バスのおり方
- 3 おさらい

の3部構成とした。

(2) 作成した教材を使って検証授業を行う。

市原市立千種小学校 知的特別支援学級ちぐさ1組、2組11人

(内訳)	1年	2人	(2人とも入学時より入級)
	2年	1人	(今年度より入級)
	3年	2人	(今年度より入級1人)
	4年	2人	
	5年	3人	
	6年	1人	

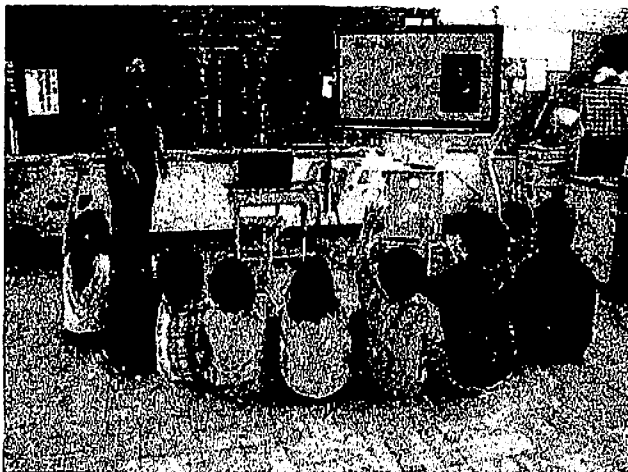
○今年度より入級した児童

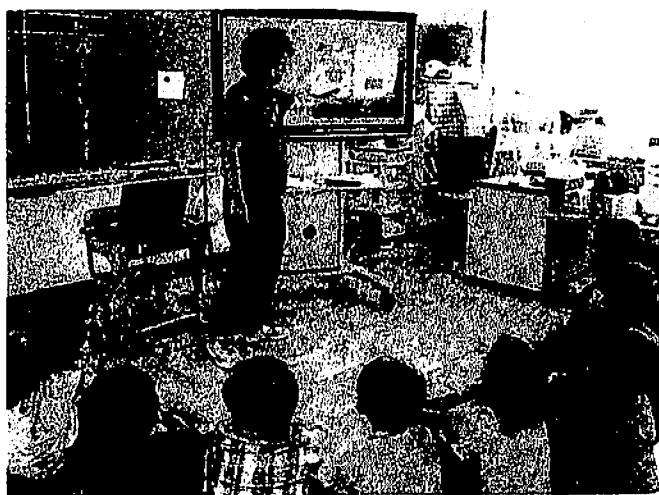
(はじめて合同学習会に参加する児童) 4人

○家庭でバスに乗る機会がある児童 2人

○バスに乗ることがほとんどない児童 9人

<授業の様子> 9月13日(水)





(3) 合同学習会で実際に路線バスを利用する。

9月20日(水) 姉崎地区合同ハイキング「千葉こどもの国キッズダム」

- ・「中扉から乗るんだよね。」「乗ったらすぐに券(整理券)を取るんだよ。」等、学習したことを思い出しながら確認する姿が見られた。
- ・教員が指摘しなくても忘れずに整理券を取ることができた。
- ・「椅子に座った人のための手すりもあるんだね。つかまっているとゆれても平気だよ。」等、学習したこと以外にも新たに発見し、友だちから感心された児童がいた。
- ・料金箱の位置がわかり、間違えずに料金を支払うことができた。
- ・「今日のバスの優先席は、赤色じゃなく青色だね。ちょっとわかりにくいね。」など優先席について学習したことが身についていると感じられた。
- ・高学年児童が低学年児童に声をかける場面が多く見られ、検証授業で学習したことが生かされていた。

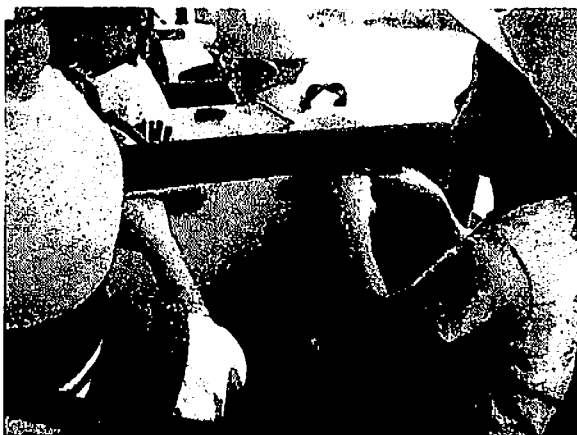
<活動の様子>



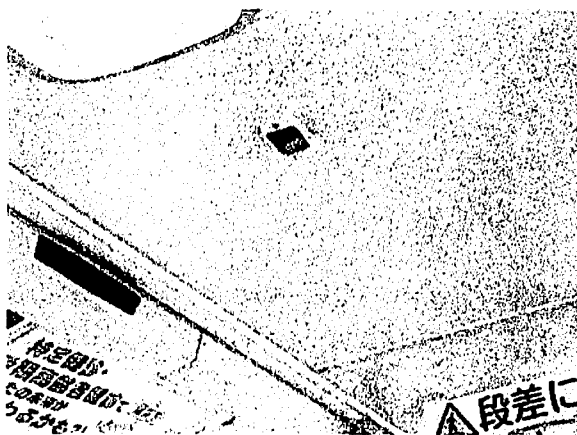
「もうすぐバスが来るね。真ん中のドアから乗るんだっただね。」



「忘れずに整理券を取ろう。」



「いすのところにも、手すりがあったよ。」



「天井にも、押しボタンがあったよ。」



「放送が流れたよ。押しボタンを押そう。」



「バス代は、間違えずに料金箱に入れられたよ。」

4. 結論

検証授業では、大型モニタの画面を見ながら、バスの乗り方・降り方の手順や料金の支払い方について考え、進んで発表することができた。文字が十分に読めない児童も画像を見ながら発表するなど主体的に学習する姿が見られた。実際に路線バスを利用した際には、教員からの指示を受ける前に、手順を自分で確認するなど主体的な姿が見られた。以上のことから子どもたちが親しみやすく、興味を持てる補助教材を作成すれば、関心意欲を持って主体的に学習にとりくめることがわかった。

5. 成果と課題

[成果]

- バスに乗る経験の少ない児童やはじめて校外学習に参加する児童にとっては、事前に視覚的に確認することができるので、当日不安は軽減され自信を持って取り組むことができた。
- パワーポイントのアニメーション機能には、児童の興味関心を十分に高めることができた。次に表示される答を予想し、児童は夢中になって挙手し、答えようとしていた。アクティブラーニングにつながると思われた。

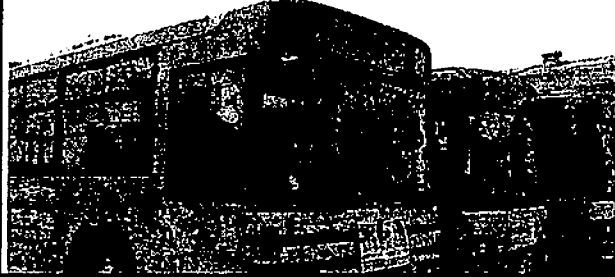
[課題]

- バス代金の支払いについて、子ども料金は運賃表示器の半額(切り上げ)の値となる。児童には理解することが難しく、学習したことを実生活に生かす「般化」が難しい。

- 今回はパワーポイントを使った一斉授業の形式での教材を作成した。市原市では今年度9月よりコンピュータ室にタブレット端末が配置された。教室外への持ち出しが可能になり、工夫次第で活用の方が広がると思われる。タブレット端末を使って、児童一人ひとりの課題に応じた学習にとりくめるような教材開発が必要になってくると思われる。
- 今回はバスの乗降と料金の支払い方に絞って教材を作成した。安全面やマナーなどについて考える教材があるとよいと感じた

資料編

バスの乗り方を学習しよう



バスに乗るとき

- ① 中とびらから乗ります。
- ※ ひとりずつ乗りましょう。
 - ※ 前のドア はおりるときに 使います。

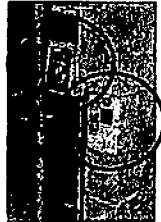


バスに乗るとき

- ① 中とびらから乗ります。
- ② せい理けんをとります。



- ※ せい理けんの 番号 をたしかめましょう。
- ※ ICカード (スイカやバスモ) をつかうときはここにタッチしましょう。

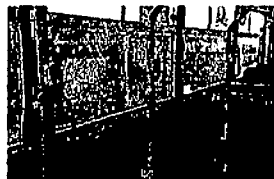


バスに乗るとき

- ① 中とびらから乗ります。
- ② せい理けんをとります。
- ③ せきにすわります。

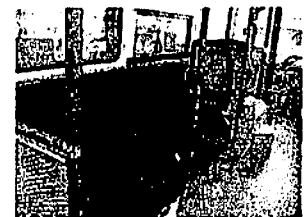
バスに乗るとき

- ③ せきにすわります。
- ※ せきがあいていないときは 手すりにつかまります。



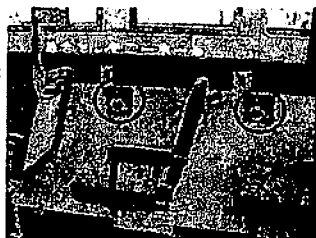
バスに乗るとき

- ③ せきにすわります。
- ※ ゆうせんせきには すわりません。

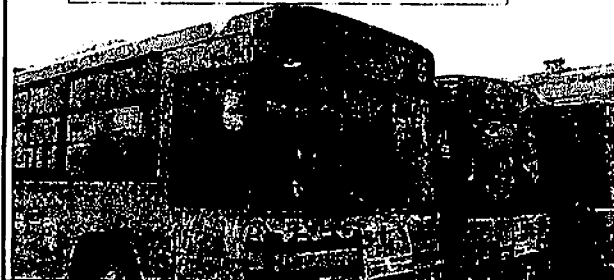


バスに乗るとき

- ③ せきにすわります。
- ※ 車いすの方が乗ってきたら せきをあげましょう。



バスの乗り方を学習しよう



バスからおりるとき

- ① おりる バスでい の ほうそう が ながれたら ボタン をおします。
- ※ ボタンはいろいろなばしょにあります。
- ※ ボタンがおされるとランプ がつきます。



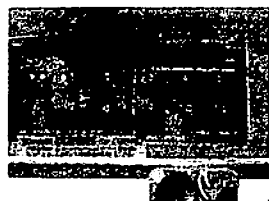
バスからおりるとき

- ① ボタン をおします。
- ② りょう金 をはらいます。
- ※ 先生からおしえてもらっている りょう金 (バス代) をはらいます。
- ※ りょう金はりょう金ばこに入れます。
- ※ りょう金は おつり のないように よういして おきましょう。



バスからおりるとき

- ① ボタン をおします。
- ② りょう金をはらいます。
- ※ りょう金が わからないときは、 りょう金ひょう を見ます。



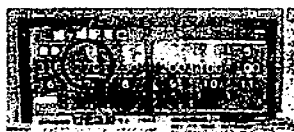
バスからおりるとき

- ② りょう金をはらいます。
- ※ せいりけん のばんごうを見てりょう金をたしかめます。



バスからおりるとき

- ② りょう金をはらいます。
- ※ 子どもりょう金はりょう金ひょうの はん分 のねだん です。
- ※ わからないときは 先生 に ききましょう。



バスからおりるとき

- ② りょう金をはらいます。
- ※ おつり は出ません。 おりるまえにりょう金がえ しましょう。
- ※ おつりのないように りょう金を ようい しましょう。



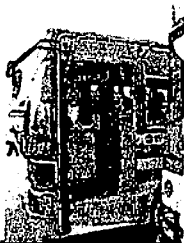
バスからおりるとき

- ① ボタン をおします。
- ② りょう金 をはらいます。
- ③ バス からおります。

※ 前とびら からおります。

※ 気をつけて おります。

※ ほこうしゃ や 自てん車 にちゅういしましょう。



バスの乗り方を学習しよう



